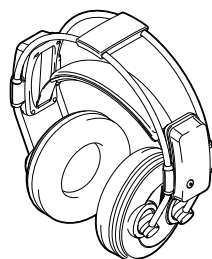
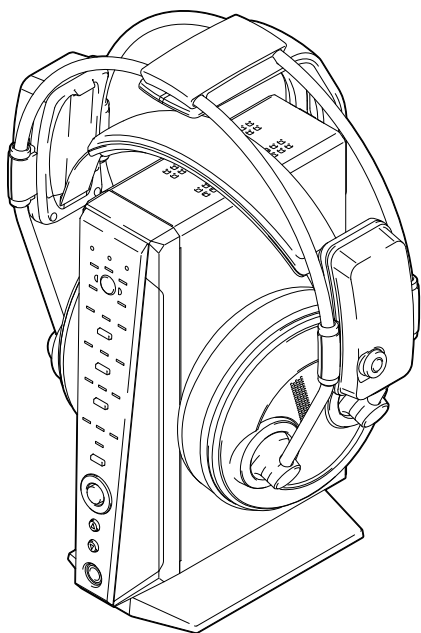
デジタルコードレスサラウンドヘッドホン

SE-DIR2000C

別売デジタルコードレスヘッドホン
SE-DHP2000

このたびは、東北パイオニアの製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。ご使用の前にこの「取扱説明書」を最後までよくお読みの上、『安全上のご注意』に従い正しくお使いください。お読みになった後は保証書、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。また、この製品は一般家庭用として作られたものです。営業目的で使用し故障した場合は、保証期間内でも有償修理を承ります。

取扱説明書

目次

お使いになる前に

接続と準備

操作

その他

安全上のご注意

安全に正しくお使いいただくために、必ずお守りください。

● ご使用の前にこの「安全上のご注意」と「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
● お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保存してください。

この安全上のご注意、取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

危険 この表示の欄は「人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容」を示しています。

警告 この表示の欄は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

注意 この表示の欄は「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

絵記号の例

△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⊘記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

警告

【異常時の処置】
万一、煙が出ている、変な臭いや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災･感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ずACアダプターをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

万一、内部に水や異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、ACアダプターをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災･感電の原因となります。

万一、本機を落としたり、破損がある場合は、機器本体の電源スイッチを切り、ACアダプターをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災･感電の原因となります。

【設置】
ACアダプターの電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災･感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気づかず、重いものをのせてしまうことがあります。

放熱をよくするため他の機器、壁などから間隔をとり、またラックに入れる時はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
･あおむけや、逆さまにする。
･押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
･テーブルクロスなどをかける。

【使用環境】
この機器に水が入ったり、濡らさないようにご注意ください。風呂場などでは使用しないでください。火災･感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

表示された電源電圧（交流100V　50／60Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災･感電の原因となります。

この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

【使用方法】
本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災･感電の原因となります。

本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災･感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災･感電の原因となります。内部の点検･整備･修理は販売店にご依頼ください。

ACアダプターの電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災･感電の原因となります。コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災･感電の原因となります。

雷が鳴り出したら、充電用接点や電源プラグに触れないでください。感電の原因となります。

付属以外のACアダプターを使わないでください。破損･液漏れや、過熱などにより、火災、けがや周囲の汚損の原因となります。

注意

【設置】
濡れた手でACアダプターを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

テレビ、オーディオ機器などに本機を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

【使用方法】
通電中のACアダプターに長時間触れないでください。長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

旅行などで長時間ご使用にならない時は、安全のため必ずACアダプターをコンセントから抜いてください。

【保守･点検】
5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

お手入れの際は安全のためにACアダプターをコンセントから抜いて行ってください。

電池についての安全上のご注意

**液漏れ・破損・発熱・発火による大けがや失明を避けるため、
下記の注意事項を必ずお守りください。**

本機では以下の電池をお使いいただけます。電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。

●充電式電池
ニッケル水素(Ni-MH)単3形

●乾電池
アルカリ単3形　マンガン単3形

⚠ 危険　充電式電池について

●付属の充電式電池を他の機器に使用しない。
●機器の表示に合わせて+と−を正しく入れる。
●本機以外で充電しない。
●火の中に入れない。分解、加熱しない。
●火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温になる場所で使用・保管・放置しない。
●コイン、キー、ネックレスなどの貴金属と一緒に携帯・保管しない。
ショートさせない。
●外装のビニールチューブをはがしたり傷つけない。
●液漏れした電池は使わない。
●指定された種類以外の充電式電池は使用しない。
●長時間使用しないときは取り外す。
●不要となった電池を破棄する場合は、各地方自治体の指示(条例)に従って処理してください。

⚠ 警告　乾電池について

●機器の表示に合わせて+と−を正しく入れる。
●充電しない。
●火の中に入れない。分解、加熱しない。
●火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温になる場所で使用・保管・放置しない。
●コイン・キー・ネックレスなどの貴金属と一緒に携帯・保管しない。
ショートさせない。
●外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。
●液漏れした電池は使わない。
●指定された種類以外の電池は使用しない。
●不要となった電池を破棄する場合は、各地方自治体の指示(条例)に従って処理してください。

⚠ 注意

● 使い切った電池は取り外す。長時間使用しないときも取り外す。
● 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使用しない。

お願い

使用済み充電式電池は貴重な資源です。端子(金属部分)にテープを貼るなどの処理をして、充電式電池リサイクル協力店に持参ください。
充電式電池の回収·リサイクルおよびリサイクル協力店については、社団法人電池工業会ホームページ
http://www.baj.or.jp/を参照してください。

液漏れが起こった時は、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

アルカリ電池の液が漏れたときは…

素手で液を触らない

● アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。

必ず次の処理をする

● 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
● 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

主な特長

Hi-Performance&Hi-Quality（高性能・高品質）

●すべてのソースを高品位なヘッドホンサラウンドへ変貌させるドルビーヘッドホン搭載。
●「ノイズレス」「広帯域」「高音質」非圧縮デジタル赤外線伝送を採用。
●最新のドルビー(*)プロロジックII、ドルビーデジタル、DTS(**)、MPEG-2 AAC(***)デコーダー内蔵。DVD、ゲーム機、ビデオやテレビもマルチチャンネルサラウンド音場再生を実現。
●デコーダーに48bitプロセッシングDSPを採用。高精度かつ高音質に各種音声フォーマットをデコードします。
●迫力感を高める3段階の低域補強モード機能。
●φ50の大口径振動板ヘッドホンユニット採用による臨場感あふれる迫力サウンドを実現。

User-Friendly（使い勝手）

●トランスミッターに掛けるだけで充電が可能。
●離れても操作ができるリモコンを付属。
●光ケーブル1本でAV機器と簡単接続、オート機能で簡単操作。
●コード付きヘッドホンも使用できる、ヘッドホン端子とボリュームを装備。
●光デジタルスルーアウト端子を装備。同軸デジタル信号も光デジタル信号に変換が可能。
●ヘッドホンを頭に装着すると電源が入り、外すと電源が切れる、便利なオートパワーオン/オフ機能を搭載。
●専用ヘッドホン（SE-DHP2000・別売り）を増設することで、多人数でサラウンドを楽しむことが可能。
●ヘッドホンの電源は、付属の充電式ニッケル水素電池または市販の乾電池のどちらでも使用が可能。

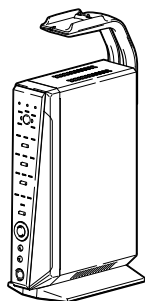
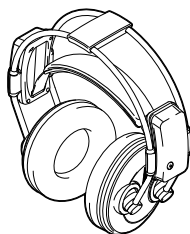
Comfortable（快適）

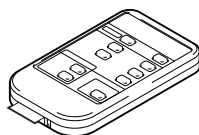
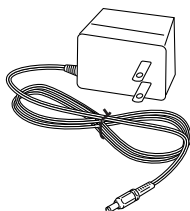
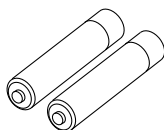
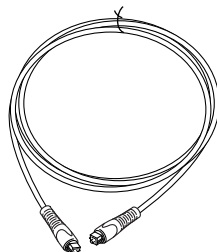
●耳に優しく柔軟なフィット感、デュアルスタビライズドハンガー採用。
●ムレやベタ付きを防止するジャージ素材の快適イヤーパッド。

AACパテントNo.
Pat. 5,848,391; 5,291,557; 5,451,954; 5 400 433; 5,222,189; 5,357,594; 5 752 225; 5,394,473; 5,583,962; 5,274,740; 5,633,981; 5 297 236; 4,914,701; 5,235,671; 07/640,550; 5,579,430; 08/678,666; 98/03037; 97/02875; 97/02874; 98/03036; 5,227,788; 5,285,498; 5,481,614; 5,592,584; 5,781,888; 08/039,478; 08/211,547; 5,703,999; 08/557,046; 08/894,844; 5,299,238; 5,299,239; 5,299,240; 5,197,087; 5,490,170; 5,264,846; 5,268,685; 5,375,189; 5,581,654; 5,548,574; 5,717,821

製品の構成

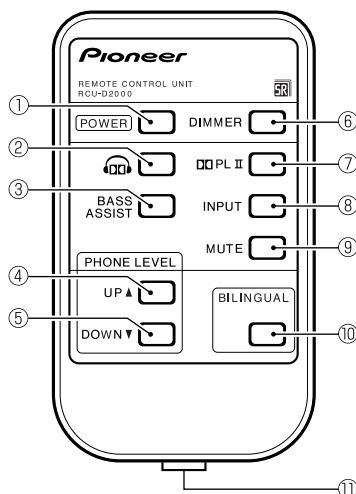
本機をお使いになる前にすべてそろっているか確かめてください。

トランスミッター

ヘッドホン

リモコン

リチウム電池 CR2025
※ リモコン本体にセットされています。

ACアダプター

専用充電式ニッケル水素電池（2本）

光デジタル接続ケーブル（角型←→角型）

取扱説明書
保証書
ご相談窓口・修理窓口のご案内

各部の名称とはたらき

リモコン（トランスミッターを操作します）

● リモコン操作時は、トランスミッター正面へ向けてご使用ください。
● リモコンの効きが悪くなった場合は、新しい電池に交換してください。
（「リモコンの電池の入れ方」18ページ参照）

①POWERボタン
電源をオン／オフします。

②ドルビーヘッドホンモードボタン
ドルビーヘッドホンモード（DH1/DH2/DH3/オフ）の切り換えに使います。

③BASS ASSISTボタン
低音域を3ステップで強調します。

④PHONE LEVELアップボタン
PHONES端子に接続しているヘッドホンの音量を上げます。

⑤PHONE LEVELダウンボタン
PHONES端子に接続しているヘッドホンの音量を下げます。

⑥DIMMERボタン
表示インジケーターの明るさを（明／暗／消）の3段階で調整します。
※リモコンのみで操作できます。

⑦ドルビープロロジックIIモードボタン
ドルビープロロジックIIモード（AUTO/MOVIE/MUSIC/オフ）の切り換えに使います。

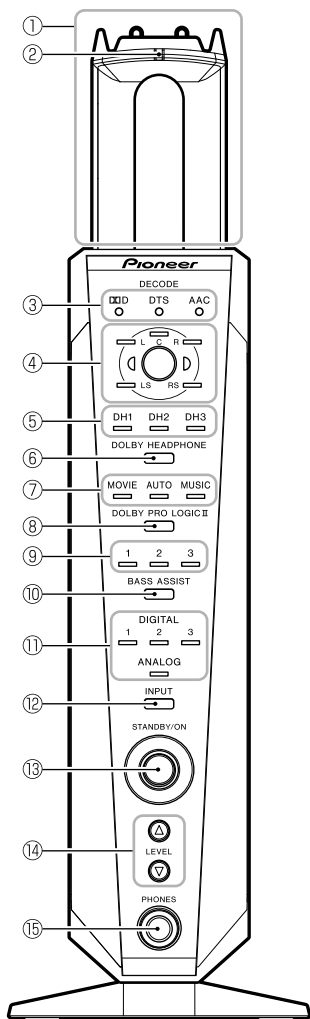
⑧INPUTボタン
入力（DIGITAL1/DIGITAL2/DIGITAL3/ANALOG）の切り換えに使います。

⑨MUTEボタン
消音します。
ミュート時は、トランスミッターのLEVELアップ/ダウンインジケーターが同時に点滅します。
※リモコンのみで操作できます。

⑩BILINGUALボタン
デュアルモノ音声再生時に音声選択（Lch1.Rch2/ch1/ch2）の切り換えに使います。
※リモコンのみで操作できます。
（デュアルモノの設定 26ページ参照）

⑪ボタン電池保護シート
最初にリモコンを使用する際は、保護シートを引き抜いてご使用ください。

各部の名称とはたらき

トランスミッター正面

①ヘッドホンスタンド

②充電インジケーター
充電式電池を充電中は、赤色に点灯します。
充電終了後は、消灯します。

③デコードモードインジケーター
入力された音声信号の記録方式をトランスミッターが自動判別して点灯します。

④出力イメージインジケーター
出力するチャンネルのイメージを表示します。

⑤ドルビーヘッドホンモードインジケーター
ドルビーヘッドホンモードを点灯します。

⑥DOLBY HEADPHONEボタン
ドルビーヘッドホンモード（DH1/DH2/DH3/オフ）の切り換えに使います。

⑦ドルビープロロジックⅡモードインジケーター
ドルビープロロジックⅡモードを点灯します。

⑧DOLBY PRO LOGICⅡモードボタン
ドルビープロロジックⅡモード（AUTO/MOVIE/MUSIC/オフ）の切り換えに使います。

⑨BASS ASSISTモードインジケーター
BASS ASSISTモードを点灯します。

⑩BASS ASSISTモードボタン
低音域強調（BASS1/BASS2/BASS3/オフ）の切り換えに使います。

⑪入力インジケーター
選択している入力（DIGITAL1/DIGITAL2/DIGITAL3/ANALOG）を点灯します。

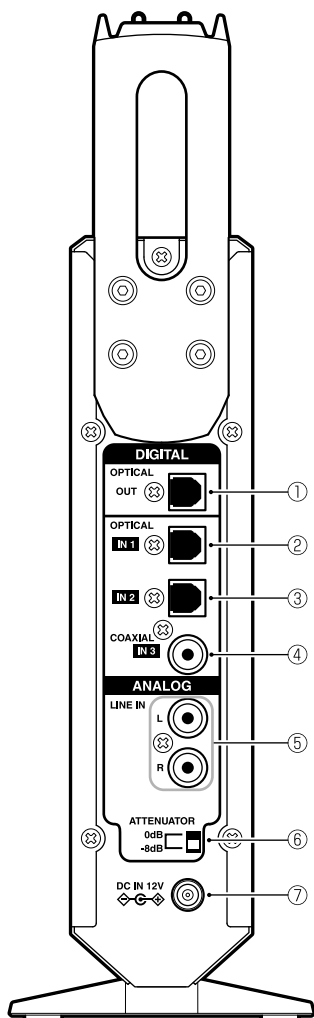
⑫INPUTボタン
入力（DIGITAL1/DIGITAL2/DIGITAL3/ANALOG）の切り換えに使います。

⑬STANDBY/ONボタン・電源インジケーター
電源をオン/オフします。電源オン時はインジケーターが青色に点灯します。

⑭LEVELアップ/ダウンボタン（インジケーター）
PHONES端子に接続しているヘッドホンの音量を調整します。

⑮PHONES端子
ヘッドホン用の接続端子です。
※付属のコードレスヘッドホンと同じサラウンド処理された音声が出力されます。

各部の名称とはたらき

トランスミッター背面

①DIGITAL OUT OPTICAL（デジタル出力 光出力）端子

AVアンプなどの光デジタル音声入力端子と接続します。選択しているデジタル入力をそのまま出力します。

②DIGITAL IN 1 OPTICAL（デジタル入力1 光入力）端子

DVDプレーヤーやデジタルチューナー、CDプレーヤーなど、デジタル機器の光デジタル出力端子に接続します。

③DIGITAL IN 2 OPTICAL（デジタル入力2 光入力）端子

DVDプレーヤーやデジタルチューナー、CDプレーヤーなど、デジタル機器の光デジタル出力端子に接続します。

④DIGITAL IN 3 COAXIAL（デジタル入力3 同軸入力）端子

DVDプレーヤーやデジタルチューナー、CDプレーヤーなど、デジタル機器の同軸デジタル出力端子に接続します。

⑤LINE IN L/R（ライン入力）端子

ビデオデッキやテレビなど、AV機器の音声出力端子に接続します。

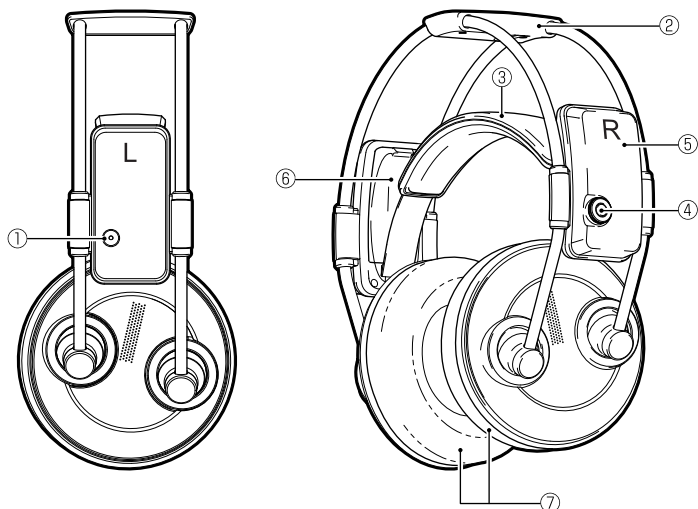
⑥ATTENUATORスイッチ

アナログ入力で音声が小さい場合は[0dB]に切り換えます。通常は[−8dB]にして使います。

⑦DC IN 12V端子

付属のACアダプターと接続します。（必ず付属のACアダプターをお使いください。プラグの極性など異なる製品を使うと、故障の原因となり危険です。）

各部の名称とはたらき

ヘッドホン

①POWER(電源)インジケーター
ヘッドホンを頭に装着すると点灯します。

②充電端子
ヘッドホンスタンドに掛けて充電します。

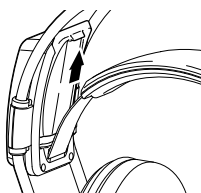
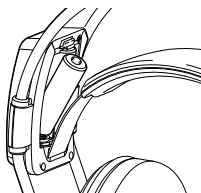
③フリーアジャストバンド
頭にかけると自動的にフィットします。

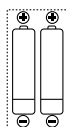
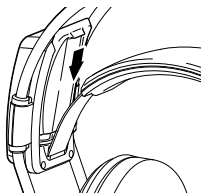
④VOL(音量)つまみ
音量を調整します。

⑤赤外線受光部
左右2箇所にあります。

⑥電池ケース
付属の充電式電池および単3形乾電池用の電池ケースです。電池ブタの突起部分を押してスライドさせるとフタが開きます。

⑦イヤーパッド

電池の入れ方

1. 電池ブタを矢印の方向に押し上げながら、
   フタを開ける。

2. 電池ケース内の極性表示どおりに電池を
   入れる。

3. 電池ブタを閉める。

■ 使用する電池について

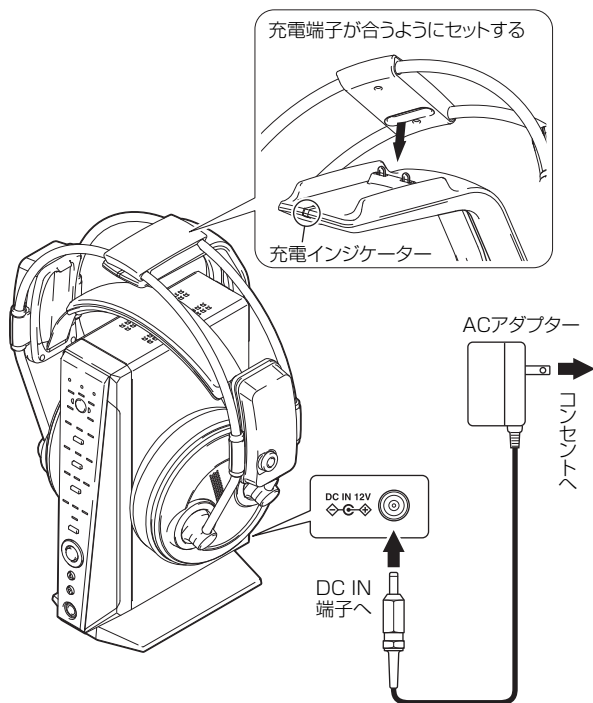
ヘッドホンの電源には付属の充電式電池を2本または単3形乾電池を2本使用します。
電池は2本とも同じ種類のものを使用してください。

■ 電池の交換時期

電池が消耗すると電源インジケーターが消え、音が出なくなります。付属の充電式電池の場合、「充電のしかた（16ページ）」に従って充電してください。乾電池の場合は乾電池を2本とも新しいものと交換してください。ヘッドホンを連続使用した場合の電池の寿命は、おおよそ以下のとおりです。

付属の充電式電池（フル充電時）：約20時間
単3形アルカリ乾電池　：約29時間
単3形マンガン乾電池　：約11時間

充電のしかた

1. トランスミッターのDC IN端子に付属のACアダプターのプラグを差し込み、ACアダプター本体を電源コンセントに差し込む。
2. ヘッドホンの電池ケースに付属の充電式電池を入れる。（「電池の入れ方」15ページ参照）
3. ヘッドホンスタンドの充電端子とヘッドホンの充電端子が合うようにセットする。
   トランスミッターの充電インジケーターが点灯し、充電を開始します。約8時間後充電を完了し、充電インジケーターが消灯します。本機は内蔵タイマーにより充電を完了しますので、ヘッドホンをヘッドホンスタンドにのせたままでも、充電のしすぎによって故障することはありません。

■ 充電インジケーターについて

赤色点灯……………充電中

充電インジケーターが点灯しない、または点滅するときは、正常な充電状態ではありません。以下を参照して、充電式電池挿入口などを確認してください。

● 充電式電池が正しく差し込まれていますか?
● 充電式電池の向き(プラス(+)端子とマイナス(−)端子)が表示と同じですか?
● ヘッドホンの充電端子が汚れていませんか?
● 付属の充電式電池以外の電池が入っていませんか?
● 充電式電池が劣化している場合があります。新しい電池に取り換えてください。

■ 充電式電池の上手な使い方

最初にお使いになる時は、必ず充電してください。
充電式電池の容量が減少すると、ヘッドホンを装着しても電源インジケーターが点灯せず、音が出なくなります。再度充電してから使用ください。

充電時間の目安と使用可能時間

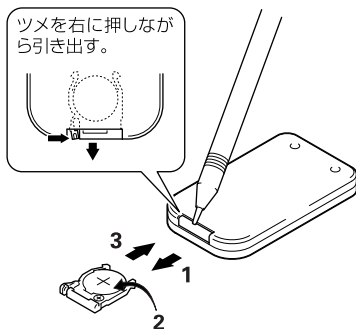
充電時間	使用可能時間
2時間	約5時間
8時間	約20時間

充電時のご注意

● バッテリーは化学反応を利用しています。
周囲の温度の影響を受けやすいため、充電は極力10℃〜35℃で行ってください。
● 充電後はバッテリー部分が温かくなりますが、異常ではありません。
● 本機には、付属のACアダプターをご使用ください。
付属以外のACアダプターを使用すると故障の原因となります。
● 本機では、付属の充電式電池以外は使用しないでください。本機は安全のため、付属の充電式電池のみ充電できるようになっています。
市販の充電式電池を使っても充電できませんのでご注意ください。
● 本機で充電しても使用時間が短くなった場合は、電池の寿命です。お買い求めになった販売店にご相談ください。

リモコンの電池の入れ方

電池はリチウム電池(CR2025)を入れてください。

1. 電池ホルダーの左側にあるツメを右に押しながら、溝の部分に鉛筆などを入れて、電池ホルダーを引き出す。
2. リチウム電池を⊕、⊖正しく入れる。
   ⊕側が、ホルダーの上面になるように入れます。
3. 電池ホルダーをはめ込む。

⚠警告

リチウム電池について

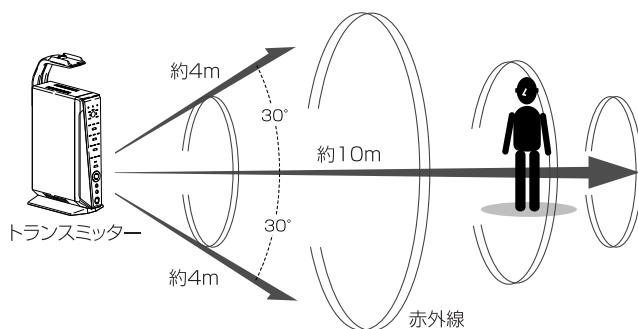
● 幼児の手の届かない所に置いてください。
● 万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。
● 分解、火に投入、充電、加熱、ハンダ付け、ショートはしないでください。

ご注意

リチウム電池を誤って使用すると液漏れや破裂などの危険があります。次の点にご注意ください(リチウム電池の注意事項も必ずご覧ください)。

◆ リチウム電池のプラス⊕とマイナス⊖の向きを電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
◆ 不要となったリチウム電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示(条例)に従って処理してください。
◆ 長い間(1カ月以上)使用しないときは電池の液漏れを防ぐため、リチウム電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭き取ってから新しいリチウム電池を入れてください。
◆ 電池ホルダーを逆にはめ込むと破損の原因となりますので、くれぐれも注意してください。

設置のしかた

トランスミッターからの赤外線の届く範囲は、おおよそ下図の範囲です。図に示された範囲内でヘッドホンが使用できるように、トランスミッターを設置してください。
赤外線が届かない場合、ヘッドホンにミュートがかかり、音が出ません。

ご注意

- 壁や不透明なガラスなどは赤外線を通しません。トランスミッターはヘッドホンをご使用になる場所から見通せる位置に設置してください。
- トランスミッターを設置するときは、テレビの上など不安定な場所は避けてください。転倒・落下して思わぬけがや故障の原因となります。
- トランスミッターの赤外線発光部の明るさにムラがある場合がありますが、赤外線の届く範囲などの性能には影響ありません。
- 直射日光やプラズマディスプレイなど、赤外線の影響を強く受ける場所に設置すると、音がとぎれる場合があります。

接続のしかた

デジタル機器との接続

付属の光デジタルケーブルを使用して、DVDプレーヤー、LDプレーヤー、デジタルチューナーなどの光デジタル出力端子と、トランスミッターのDIGITAL IN端子を接続してください。

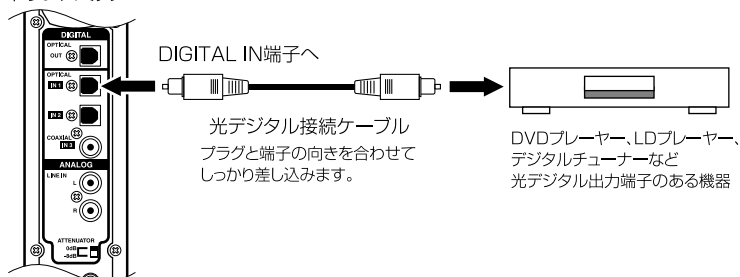
トランスミッター

DIGITAL
OPTICAL
OUT
OPTICAL
IN 1
IN 2
COAXIAL
IN 3
ANALOG
LINE IN
L
R
ATTENUATOR
0dB
-8dB

DIGITAL IN端子へ

光デジタル接続ケーブル

プラグと端子の向きを合わせて
しっかり差し込みます。

DVDプレーヤー、LDプレーヤー、
デジタルチューナーなど
光デジタル出力端子のある機器

ご注意

- 光デジタル接続ケーブルは非常に精密に作られています。このため、外部からの力や衝撃に対して弱くなっていますので、プラグを抜き差しするときは丁寧にお取り扱いください。
- 本機にはAC-3　RF端子が装備されていませんので、LDプレーヤーのAC-3　RF信号を直接入力することはできません。
- 本機のデジタル入力は32kHz、44.1kHzおよび48kHz以外のサンプリング周波数には対応していません（対応していないサンプリング周波数のデジタル信号が入力された時、DIGITAL入力インジケーターが点滅します）。DVDプレーヤー側のデジタル出力に関する設定を48kHzにしてお使いください。
- パソコンを使用してデジタル入力する場合は、動作保証はいたしません。

デジタルスルーアウト機能（DIGITAL OUT端子からの出力）

本機では、DIGITAL　IN1端子、DIGITAL　IN2端子、DIGITAL　IN3端子から入力されたデジタル信号を、そのままDIGITAL　OUT端子に出力することができます。お手持ちの機器のデジタル入力端子にも接続されたデジタル機器から同じデジタル信号を入力できます（デジタルスルーアウト機能）。この機能を使ってお手持ちのAV機器に本システムを追加すると、デジタルケーブルを接続し直す手間が省けます。

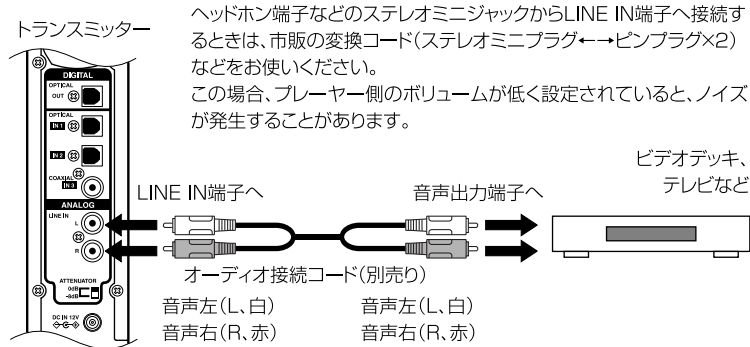
ご注意:トランスミッターの電源がオフの場合は、デジタル信号は出力されません。

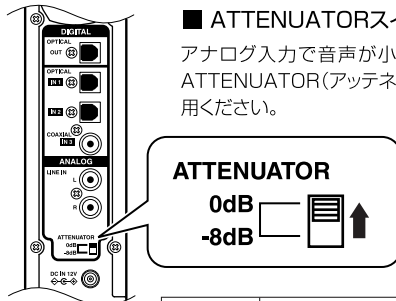
■ DTSについて

- DTS音声で収録されたDVDディスクを再生するには、DTSに対応したDVDプレーヤーが必要です（詳しくはお使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください）。
- DTSフォーマットのLDディスクやCDディスクで、早送り時や巻き戻し時などにノイズが発生することがありますが、故障ではありません。
- DVDプレーヤーのDTSデジタル出力端子が「オフ」や「切」になっている場合は、DVDメニューでDTS出力を選択しても音が出ないことがあります。
- DVDプレーヤーと本機をアナログで接続している場合、音が出ないことがあります。この場合は、デジタルで接続してください。

アナログ機器との接続

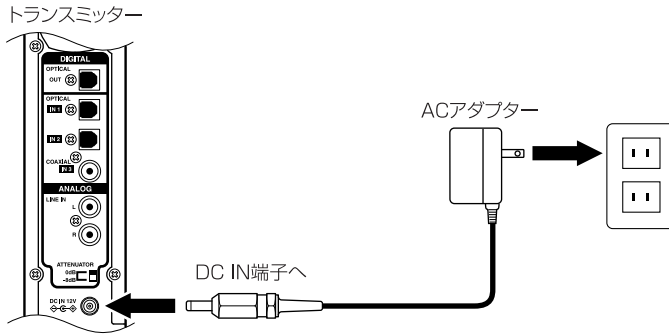
別売りのオーディオ接続コードを使用して、ビデオデッキやテレビなどの音声出力端子と、トランスミッターのLINE IN(L/R)端子を接続してください。

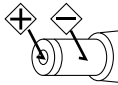
ヘッドホン端子などのステレオミニジャックからLINE IN端子へ接続するときは、市販の変換コード(ステレオミニプラグ←→ピンプラグ×2)などをお使いください。
この場合、プレーヤー側のボリュームが低く設定されていると、ノイズが発生することがあります。

■ ATTENUATORスイッチについて

アナログ入力で音声が小さいときは、トランスミッター背面にあるATTENUATOR(アッテネーター)スイッチを「0dB」に切り換えてご使用ください。

位置	視聴ソース
0dB	テレビやポータブル機器など、出力レベルの低いもの
-8dB	その他の機器(出荷時の設定)

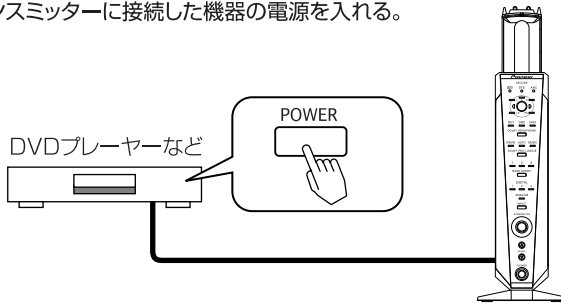
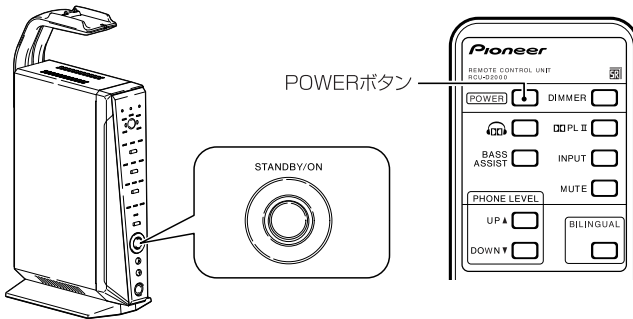
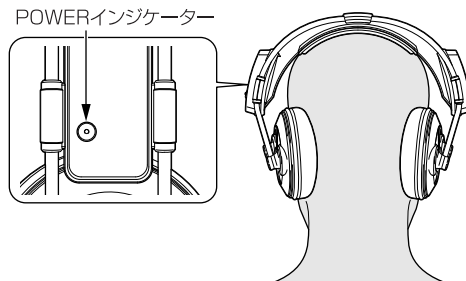
ご注意

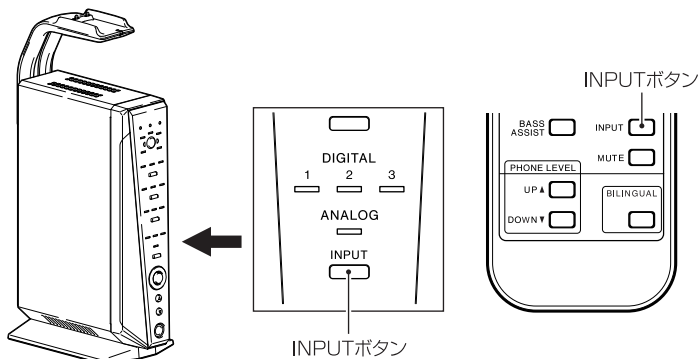
ATTENUATORスイッチは、必ず音量を下げてから切り換えてください。
アナログ入力された音声が歪む(同時にノイズが発生する場合もあります)ときは、ATTENUATORスイッチを「-8dB」に切り換えてください。

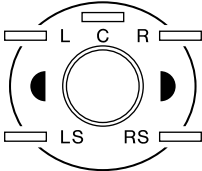
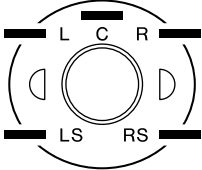
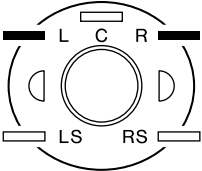
電源の接続

ご注意

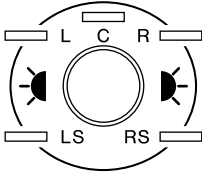
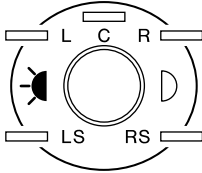
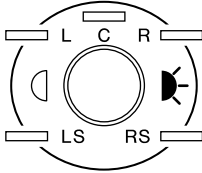
● 必ず付属のACアダプター(極性統一形プラグ·JEITA規格)をご使用ください。プラグの極性など異なる製品を使うと、故障の原因となります。

● 電圧やプラグ極性が同じACアダプターでも、電流容量その他の要因で故障の原因となります。必ず付属のACアダプターをご使用ください。

使い方

1. トランスミッターに接続した機器の電源を入れる。

2. トランスミッターのSTANDBY/ONボタンまたはリモコンのPOWERボタンを押して、トランスミッターの電源を入れる。
各インジケーターが点灯します。

3. ヘッドホンをかける。
POWERインジケーターが赤く点灯し、自動的に電源が入ります。

操作

4. INPUTボタンまたはリモコンのボタンを押して、音声を聞く機器を選ぶ。

点灯するインジケーター	聞きたい音源
DIGITAL 1、2、3	DIGITAL IN1、2、3端子のいずれかに接続した機器の音声
ANALOG	LINE IN端子に接続した機器の音声

ご注意

LINE IN端子に接続して二重音声（MAIN/SUB）の音源を視聴するときは、プレーヤーやテレビ側で聞きたい音声を選んでください。

5. 手順4で選んだ機器の再生を始める。

6. DOLBY HEADPHONEボタンおよびDOLBY PRO LOGICⅡボタンまたはリモコンのボタンを繰り返し押して、出力モード（サラウンド効果）を選ぶ。

■ 出力イメージインジケーター

点灯するインジケーター	出力モード(サラウンド効果)
L C R LS RS	ドルビーヘッドホンモード「OFF」 ドルビーヘッドホン処理をしない通常のヘッドホン再生時に点灯します。
L C R LS RS	「マルチチャンネル音声」ドルビーヘッドホン再生時 マルチチャンネルのフォーマットで記録された信号や、ステレオソースをドルビープロロジックⅡでマルチチャンネル化し、ドルビーヘッドホン再生したときに点灯します。 前方に置かれた左右2個のスピーカーに加え、1個のセンタースピーカー、後方に置かれた左右2個のスピーカー、および1個のサブウーファーから音が聞こえてくるような効果が得られます。
L C R LS RS	「ステレオ音声/モノラル音声/デュアルモノ音声」ドルビーヘッドホン再生時 ・ステレオソースを、ドルビープロロジックⅡを「オフ」にしてドルビーヘッドホン再生したときに点灯します。 ・モノラル音声をドルビーヘッドホン再生したときに点灯します。 ・デュアルモノ音声をドルビーヘッドホン再生したときに点灯します。 前方に置かれた左右2個のスピーカーから音が聞こえてくるような効果が得られます。

■ デュアルモノ音声選択時の表示

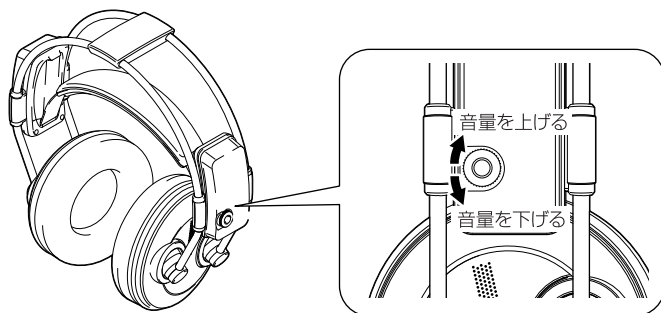
点滅するインジケーター	音声モード
L C R LS RS	**Lch1/Rch2同時再生を選択** Lch1/Rch2再生を選択した時、左右のインジケーターが約5秒間点滅します。 点滅後、元の出力イメージに戻ります。
L C R LS RS	**ch1を選択** ch1を選択した時、左のインジケーターが約5秒間点滅します。 点滅後、元の出力イメージに戻ります。
L C R LS RS	**ch2を選択** ch2を選択した時、右のインジケーターが約5秒間点滅します。 点滅後、元の出力イメージに戻ります。

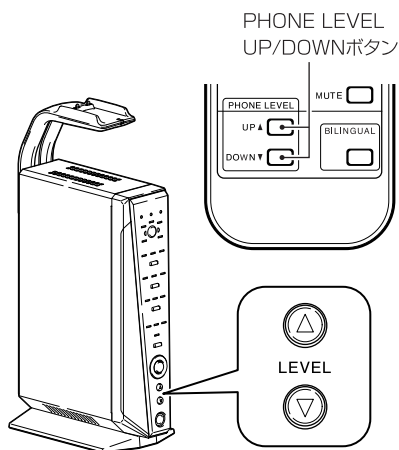
デュアルモノの設定

1+1デュアルモノラル信号とは、モノラルの音声チャンネルを2つもつデジタル信号のことで、ここではデュアルモノラル信号が入力されたときにどちらの音声を出力するかを設定します。この設定は例えば以下のような1+1デュアルモノラルフォーマットのソースにのみ有効です。

· BSデジタル放送や地上波デジタル放送のモノラルの二カ国語放送や音声多重放送など
……ステレオの二カ国語放送などはデュアルモノラルとは異なるフォーマットになります。

· 二カ国語放送などをDVDレコーダーのデュアルモノラルモードで録画したもの
……録画モードの名称は機器によって異なります。
詳しくはDVDレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

ch1　　　　：チャンネル1の音声のみを出力する場合。
ch2　　　　：チャンネル2の音声のみを出力する場合。
Lch1.Rch2 ：チャンネル1の音声を左から、チャンネル2の音声を右から出力する場合

7. 音量を調整する。

PHONES端子に接続したヘッドホン(別売り)の音量を調整するには、PHONE LEVELアップ/ダウンボタンまたはリモコンのボタンを押して調整してください。

ボリュームコントロール表示	
LEVEL	**ボリュームアップ時** ボリュームアップ時、点滅します。 最大音量になると、点灯に変わります。
LEVEL	**ボリュームダウン時** ボリュームダウン時、点滅します。 最小音量になると、点灯に変わります。
LEVEL	**ミュート時** リモコンでMUTEボタンを押してミュートをかけたときに点滅します。

デコードモードインジケーターについて

入力された音声信号の記録方式をトランスミッターが自動判別して点灯します。
ドルビーデジタル/DTS/PCMなどの音声切り換えは、接続した機器側(DVDプレーヤー、デジタルチューナーなど)で行ってください。

DD D:ドルビーデジタルのビットストリーム信号を検知していることを示します。
DTS:DTSのビットストリーム信号を検知していることを示します。
AAC:AACのビットストリーム信号を検知していることを示します。

操作

ドルビーヘッドホンについて

この製品にはドルビーヘッドホン技術が搭載されています。ドルビーヘッドホンは、2chステレオヘッドホンでマルチチャンネル立体音響を楽しむためのヘッドホンバーチャル技術です。ヘッドホンを接続するだけで、ドルビーデジタル、DTSを始めとする最新のマルチチャンネルソースはもちろん、ドルビープロロジックⅡデコード処理されたステレオソースからも、臨場感あふれる、高忠実度なサラウンド音響のもたらす感動を手軽にお楽しみいただくことが可能です。

ドルビーヘッドホンの効果

通常ヘッドホンでステレオを聞くと、スピーカーのように目の前に音が定位することはなく、すべての音が耳元や頭の中で鳴ってしまいます。ヘッドホンステレオに慣れている人たちにとってもこの不自然さは快適なものではなく、ましてや映画をヘッドホンで鑑賞することは大きな苦痛でした。ところがドルビーヘッドホンでは、部屋に置かれたスピーカーが再現されるように聞こえます。
部屋のタイプは3種類用意されています。

DH1：ミキシングルームのように残響を抑えた空間
DH2：適度に残響のある一般的なリスニングルーム（初期設定では、この状態になっています）
DH3：小規模な映画館

ドルビープロロジックⅡについて

ドルビープロロジックⅡはすべての2チャンネルソースを5.1チャンネルに再生するデコード技術で、メイン5チャンネルの再生帯域はドルビーデジタル同様にフルバンドです。オリジナル音源に対する色付けを極限まで排除し、高音質を維持しながら、自然な空間表現を実現することが可能です。

ドルビープロロジックⅡの各種モードについて

AUTOモード（初期設定では、この状態になっています）

AUTOモードは、入力ソースによってMOVIEモードかMUSICモードを自動的に選択します。
デジタル入力でDVDを再生したときやアナログ入力時は、MOVIEモードを選択します。
デジタル入力でCDを再生したときはMUSICモードを選択します。

MOVIEモード

MOVIEモードはステレオ音声によるテレビ番組やドルビーサラウンドエンコードされたすべてのプログラムソースに適しています。ディスクリート5.1チャンネル音響に迫る音場再現が可能です。

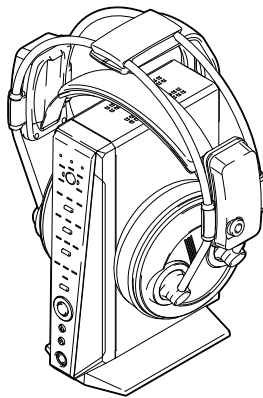
MUSICモード

MUSICモードはあらゆるステレオ音楽録音で用いられ、広く深い音場を確保できます。

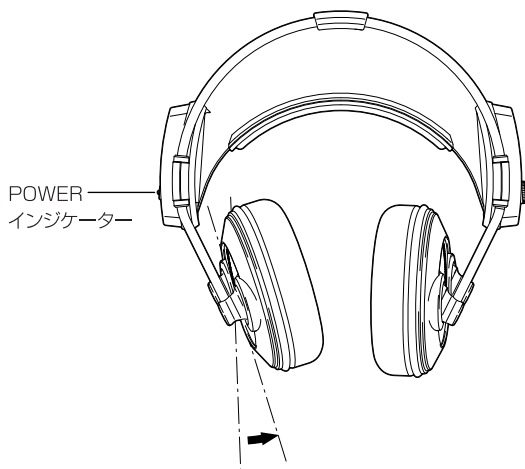
ヘッドホンのオートパワーオン／オフ機能について

ヘッドホンを外すと自動的に電源が切れます。
ヘッドホンをお使いにならない時は、トランスミッターのヘッドホンスタンドに図のようにヘッドホンを掛けてください。

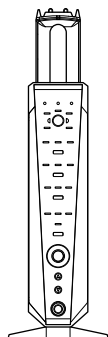
ご注意

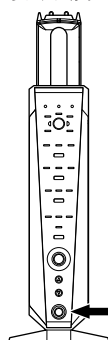
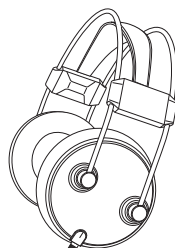
ヘッドホンスタンドにヘッドホンを極端に傾けてかけた場合、ヘッドホンの電源が入る場合があります。
ヘッドホンをヘッドホンスタンドにかけた場合は、POWERインジケーターが消灯していることを確認してください。

電池の残りの確認について

イヤーパッド(L)を内側に曲げ、POWERインジケーターが赤く点灯すれば使用できます。
点灯しない場合は、充電式電池を充電するか、新しい乾電池に取り換えてご使用ください。

操作

増設ヘッドホンのご案内

本システムでは、2通りの増設ヘッドホンを用意しています。

■ コードレスで多人数で楽しむには…
専用コードレスヘッドホン(SE-DHP2000、別売り)を増設することで、多人数でサラウンドを楽しめます。
受信エリア内であれば、何台でも使用可能です。

ご注意
本システムは、デジタル赤外線伝送方式を採用しているため、アナログ方式の赤外線コードレスヘッドホンは使用できません。
※2005年7月現在、SE-DHP2000(別売り)、SE-DHP800(別売り)があります。

■ 通常のヘッドホン(有線タイプ)を接続するには…
PHONES端子にお手持ちのヘッドホンを接続することにより、サラウンドを楽しめます。

ご注意
ヘッドホンをPHONES端子から抜くときは、コードを引っ張らずに、必ずプラグを持って抜いてください。

故障かな?と思ったら

故障かな?と思ったら、チェックしてみてください。ちょっとした操作ミスが故障と思われがちです。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用のAV機器などもあわせてお調べください。下記の項目に従って再度点検されても直らないときは、お買い上げの販売店またはパイオニアサービスステーションにご連絡ください。

症　状	考えられる原因と処置
音が出ない	●ヘッドホンの電池の+と−の向きを確認してください。 ●ヘッドホンの電池が完全に消耗していないか確認してください。 イヤーパッド(L)を内側に曲げて(29ページ参照)POWERインジケーターが消灯していたら、充電式電池は充電し、乾電池は新しいものと交換してください(断続的に電源がオン/オフする場合も、同様の処置をしてください)。 ●ヘッドホンの音量を上げてください。 ●ヘッドホンに赤外線が届いていない場合があります。下記を確認してください。 ①ヘッドホンとトランスミッターの間に障害物がないか。 ②なるべくトランスミッターの近くでヘッドホンを利用する。 ③トランスミッターの位置や角度を変える。 ④ヘッドホンの赤外線受光部を手や髪でおおっていないか。 ●ヘッドホンにトランスミッター以外から赤外線が入っている場合があります。下記を確認してください。 ①ヘッドホンの赤外線受光部に直射日光が当たっていないか。 ②プラズマディスプレイが近くにある場合は、本機を離して設置する。 ●トランスミッターとAV機器の接続を確認してください。 ●トランスミッターに接続したAV機器の電源が入っているか確認して、再生を始めてください。 ●トランスミッターのアナログ入力に接続しているときは、接続した機器の音量を上げてください。 ●トランスミッターの電源がオンになっているか確認してください。 ●DTS音声トラックを再生するときは、DTSに対応したDVDプレーヤーを使用してください。また、Dolby DigitalやPCMトラックを選択してください。 ●DVDプレーヤー(ゲーム機を含む)のDTSデジタル出力設定が「オフ」または「切」の状態で、DTS音声で収録されたDVDを再生している場合は、音が出ないことがあります。DVDプレーヤーに付属の取扱説明書を参照して、DTSデジタル出力設定を「オン」または「入」に切り換えてください。 ●DVDプレーヤー(ゲーム機を含む)と本機をアナログで接続している状態で、DTS音声で収録されたDVDを再生している場合、音が出ないことがあります。この場合は、デジタルで接続してください。 ●ACアダプターの接続を確認してください。 ●INPUTボタンで入力を正しく選んでいるか確認してください。 ●デジタル接続でデジタル信号のクロック周波数が悪い場合は、ヘッドホンから音が出ない、または音切れが発生します。この場合は、アナログで接続してください。

症　状	考えられる原因と処置
DIGITAL入力インジケーターが点滅している	●本機で対応していないサンプリング周波数のデジタル信号が入力されています。DVDプレーヤー側の出力を48kHzに設定するか、またはアナログ入力をご使用ください。
DTS信号のソースが再生出来ない	●接続しているAV機器(ゲーム機を含む)がDTS信号の出力に対応していない場合は、DTS信号出力に対応した機器に変更してください。
音がひずむ(同時にノイズがでる場合もある)	●トランスミッターのATTENUATORスイッチを「-8dB」に切り換えてください。 ●トランスミッターとAV機器のヘッドホン端子を接続したときは、接続した機器の音量を下げてください。
音が小さい	●トランスミッターのATTスイッチを「0dB」に切り換えてください。 ●トランスミッターとAV機器のヘッドホン端子を接続したときは、接続した機器の音量を上げてください。 ●ヘッドホンの音量を上げてください。
サラウンド効果が得られない	●ドルビーヘッドホンモードが「オフ」になっている場合は、「オン」にしてください。 ●再生中の音声がマルチチャンネルの信号になっていない場合は、サラウンド効果が得られません。サラウンド音源を持つ音声を再生してください。
「DD D」インジケーターが点灯しない	●DVDプレーヤー(ゲーム機を含む)の音声デジタル出力の設定が「PCM」になっている場合は、DVDプレーヤーの取扱説明書を参照して、デジタル出力を「Dolby Digital」に設定してください。 ●ドルビーデジタルフォーマットで記録されていない信号を再生している場合は、インジケーターは点灯しません。ドルビーデジタルフォーマットで記録された信号を再生してください。 ●再生中のチャプターの音声がドルビーデジタルになっていない場合は、インジケーターは点灯しません。ドルビーデジタルフォーマットで記録された信号を再生してください。
「ドルビープロロジックII」インジケーターが点灯しない	●デジタル入力でステレオ以外のフォーマットの信号を再生している場合は、インジケーターは点灯しません。ステレオフォーマットで収録された信号を再生してください。 ●ドルビープロロジックIIモードが「オフ」になっている場合は、「オン」にしてください。
「DTS」インジケータが点灯しない	●DVDプレーヤー(ゲーム機を含む)のDTSデジタル出力設定が「オフ」または「切」になっている場合は、DVDプレーヤーに付属の取扱説明書を参照して、DTSデジタル出力設定を「オン」または「入」に切り換えてください。 ●DTSフォーマットで記録されていない信号を再生している場合は、インジケーターは点灯しません。DTSフォーマットで記録された信号を再生してください。

症　状	考えられる原因と処置
「DTS」インジケータが点灯しない	●DVDプレーヤーがDTSに対応していない場合は、インジケーターは点灯しません。DTSに対応したDVDプレーヤーをご使用ください。
「AAC」インジケーターが点灯しない	●デジタル放送チューナーのデジタル出力設定が「PCM」になっている場合は、インジケーターは点灯しません。デジタル放送チューナーに付属の取扱説明書を参照して、デジタル出力設定を「AAC」に切り換えてください。 ●AACフォーマット記録されていない信号を再生している場合は、インジケーターは点灯しません。AACフォーマットで記録された信号を再生してください。
DIGITAL OUT端子に接続した機器から音が出ない	●トランスミッターの電源をオンにしてください。 ●接続したデジタル入力側の機器から信号が出ているか確認してください。 ●アナログ入力を選択している場合は、音が出ません。 デジタル入力を選択してください。
充電できない	●乾電池が入っている場合は、付属の充電式電池に交換してください。 ●付属以外の充電式電池が入っている場合は、付属の充電式電池に交換してください。 ●充電式電池が劣化している場合があります。その場合は、新しい電池と交換してください。

静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しないことがあります。このようなときは、ACアダプターを一度抜いて再び差し込むことで正常に動作する場合があります。これで解決しないときは、お買い上げの販売店または最寄りのサービスステーションにご相談ください。

使用上のご注意

取り扱いについて

●トランスミッター、ヘッドホンを落としたり、ぶつけたりなど強いショックを与えないでください。故障の原因となります。
●各機器を分解したり、開けたりしないでください。

電源と設置について

●長い間使わないときは、ACアダプターをコンセントから抜いてください。コンセントから抜くときは、コードを引っ張らずに必ずACアダプター本体をつかんで抜いてください。
●次のような場所には置かないでください。
・窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所、および暖房器具の近くなど温度が非常に高い所。
・ほこりの多い所。
・ぐらついた台の上や傾いた所。
・振動の多い所。
・風呂場など、湿気の多い所。

ヘッドホンについて

ヘッドホンは、音量を上げすぎると音が外にもれます。音量を上げすぎて、まわりの人の迷惑にならないように気をつけましょう。
雑音の多い所では、音量を上げてしまいがちですが、ヘッドホンで聞くときはいつも、呼びかけられた時に返事ができるくらいの音量を目安にしてください。

イヤーパッドについて

ヘッドホンのイヤーパッドは布製ですので、整髪剤の種類などによっては色落ちする場合があります。

お手入れのしかた

機器の外装の汚れは、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤溶液で湿らせた布で拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは、表面の仕上げを傷めるので使わないでください。

異常や不具合が起きたら

●万一、異常や不具合が起きたり、異物が中に入ったときは、すぐに電源を切り、お買い上げ店、またはパイオニアサービスステーションの窓口にご相談ください。
●お買い上げ店、またはサービス窓口にお持ちなる際は、必ずヘッドホンとトランスミッターを一緒にお持ちください。

保証とアフターサービス

保証書(別添)について

保証書は、必ず「販売店名·購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後6年です。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い上げの販売店へご依頼ください。また、ご転居されたりご贈答品などでお買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、修理受付センターにご相談ください。
所在地、電話番号は付属の「ご相談窓口·修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

31～33ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名: デジタルコードレスサラウンド
  ヘッドホン
- 型番: SE-DIR2000C
- お買い上げ日
- 故障の状況(できるだけ詳しく)

■ 保証期間中は:
修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ 保証期間が過ぎているときは:
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

■ お願い:
修理のために本機をお持ち込みいただく際は、部分的な故障と思われる場合でもシステム全体での動作確認が必要となるため、全機器をお持ち込み願います。

仕　様

■ ヘッドホン (SE-DHP2000)

型　　　式	オープンエアダイナミック
使用ユニット	φ50mm
再生周波数帯域	10～24,000Hz
電　　　源	DC2.4V（充電式ニッケル水素電池×2） またはDC3V（単3形乾電池×2）
質　　　量	約350g（電池含まず）

■ トランスミッター (TRE-D2000)

再生可能フォーマット	ドルビーデジタル（サラウンドEXを含む） ドルビープロロジックII DTS（DTS-ESを含む） MPEG-2 AAC PCM（Fs=32kHz, 44.1kHz, 48kHz）
サラウンド機能	DOLBY HEADPHONEモード: DH1, DH2, DH3, OFF DOLBY PRO LOGICIIモード: AUTO, MOVIE, MUSIC, OFF
バスアシスト機能	3段階
入　力　端　子	デジタル: 光角型×2、同軸型×1 アナログ: ステレオRCAピンジャック×1
出　力　端　子	光角型×1（スルー出力） ヘッドホン出力端子×1（φ6.3mm）
電　　　源	DC12V（付属ACアダプターを使用）
質　　　量	約1.0kg

■ 一般仕様

伝　送　方　式	非圧縮デジタル赤外線伝送
赤外線到達距離	正面10m

■付属品

ACアダプター
取扱説明書
リモコン(リチウム電池 CR2025）
光デジタル接続ケーブル（角型1.5m）
専用充電式ニッケル水素電池（単3形）×2
ご相談窓口･修理窓口のご案内

●本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

商品に関するお問い合わせおよびカタログのご請求は下記のカスタマーサポートセンターへお電話でどうぞ（全国共通 フリーフォン）

カスタマーサポートセンター

●家庭用オーディオ/ビジュアル商品のお問い合わせおよびカタログのご請求窓口　フリーフォン 0070−800−8181−22

【一般電話】03−5496−2986

●FAX受付　03−3490−5718

(ご注意)市外局番「0070」で始まるフリーフォンはPHS、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話などではご利用になれません。また【一般電話】は、携帯電話、PHS等からのご利用が可能ですが、通話料金がかかります。あらかじめご了承ください。

●営業時間／ 月〜金曜 9:30〜17:00　土曜·日曜·祝日 9:30〜12:00、13:00〜17:00（弊社休業日除く）

ホームページでのカタログ請求とメールサービス登録のご案内

http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg.html

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか?

·電源コードや電源プラグが異常にあつくなる。
·電源コードにさけめやひび割れがある。
·電気が入ったり切れたりする。
·本体から異常な音、熱、臭いがする。

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店またはパイオニアサービスステーションに点検（有料）をご依頼ください。

東北パイオニア株式会社 〒994-8585　山形県天童市久野本1105
Printed in China〈WRA1093-B〉